

## 増田茂さん

生産者の利益になることじゃないとダメ。学ぶ余裕、勉強会に参加する余裕をどのように引き出してあげるか、生産の有効性に直結するように考えてほしい。



増田茂 プリティーローズ代表  
1951年静岡県生まれ。建設機械製販会社籍中に土壌改良に着目。骨材開発会社にて農地造成の研究。84年より土壌肥料を中心にコンサルタントを始める。育苗培地の研究開発商品化。90年より水圏環境の研究を始め、養殖における水質コントロール技術、水圏における環境改善技術、池の構造と機能の研究開発、うなぎの加工技術などの技術開発を展開。現在、養殖と農業におけるトータルシステムの技術開発を展開中。

## 安原克彦さん

(食品部会委員  
らでいっしゅぼーや商品1課課長)



「いかにして良い原料を安定して確保するか」。食品加工メーカー共通の課題ではないでしょうか。天然魚が10年後の水産原料として今と同じように扱えることができるのでしょうか。もし天然魚が獲れなくなった時、今の養殖魚が取って代わるのでしょうか。

この集会からひとりで取り組んでは解決の糸口さえ見出せないような大きな課題が見えてきました。大きな課題だからこそRadixの会で取り組む必要があるのでしょうか。まずは皆さんの知っている持続的養殖と思われる情報を集約

していくことから始めたいと思います。ぜひ情報を事務局までお寄せください。将来の水産資源を育てていきましょう。

## 竹並一人さん

(Radixの会水産幹事 別所かまぼこ店)



天然漁獲が減るなかで、養殖魚を加工にまわせるようになったらいい。今日からでも、一般養殖からひとつでも上を目指し、クリアできたら次のハードルを目指すなどしていきたい。

## インタビュー

# ふたつの"R"ができること

Radicleの会会長・宮内兼康さん(株式会社グリフイス 代表取締役)

「Radicleの会」。それは、「らでいっしゅぼーや配送スタッフ互助会」の新名称。Radicleの会は、「届ける人、伝える人」の集まりです。そして私たちRadixの会は、「作る人」の集まり。「作る」「届ける」「伝える」の3つが集まってできることはなにか? 新生Radicleの会会長に就任した宮内兼康さんにお話を伺いました。

# Interview

## ■経験しないと伝えられない

Radicleの会は、らでいっしゅぼーやの5つのセンターを拠点とした5つの支部単位で構成されています。配送の現場は、らでいっしゅの商品を手にとってくれる消費者にいちばん近い。つまりらでいっしゅの顔ともいえるわけですから、これまでも各エリアの各配送法人内ではさまざまな勉強や消費者との交流をしてきています。昨年、Radixの会の援助をいただいて産地研修を行い、山梨の早川宗延さんのところへも伺いましたが、私たち自身でも数年前から、早川さんのところでたまねぎの収穫などをさせてもらっていました。やはり、経験しないと自分の言葉でらでいっしゅの会員さんに伝えることはできませんからね。配送スタッフは各々、担当する区域の会員さんに「こんどらでいっしゅの生産者さんのところに行くんですよ」「これボクが収穫したたまねぎです。でもこれ

だどらでいっしゅでははじかれちゃうんですよ」と報告したりしていましたよ。

## ■配送の現場と生産の現場を密接に

このように各自でも活動をしていましたから、今回Radixの会とRadicleの会の活動がリンクしたことで、何がかわるか、何が出来るかを、全配送スタッフに伝わるようにしたいですね。

また、我々が感じているのは、らでいっしゅの会員の声が生産者のところまで情報として届いているだろうか、ということ。らでいっしゅの会員さんに直に会っている我々と生産者が直接会って話のできる場を増やせたらと思います。昨年の所沢での元気市ほど大規模ではなく配送エリアごとのミニ元気市のようなイベントを開くとか。また、産地研修というと農産というイメージが先行しますが、加工品メーカーさんの工場を見学し、商品についても勉強する、そ



Radicleの会会長・宮内兼康さん

れもひとつの産地研修といえると思います。まずはRadicleの会の各支部近隣の生産者・メーカーさんのご協力をいただけたらいいですね。配送の現場と生産の現場をより密接にしていきたいと思います。

## Radicleの会5つの支部

- 北海道支部：2法人11名
- 首都圏支部：7法人98名
- 神奈川支部：6法人57名
- 中部支部：3法人27名
- 大阪支部：4法人35名